

広報より

第3救済 慈喜徳会に寄せられるお問合せに対する回答内容を公開いたします。



こんなギモン、ありませんか？

お問合せ

いわゆる「声なき声」が聞こえるという人がいますが、受け入れてもいいのでしょうか。

天声ではない「声なき声が聞こえる」という人が他者を誘導するというケースが稀に見られます。これは、次元が低く進化の遅れを如実に表わす現象であると天から常々示されており、いわば低次元と同調する素地がある人が引き合う現象です。天声と、それ以外の「声」には、まさに天と地ほどの開きがあるため、他者を人間完成へと導けるものでは到底あらず、言葉巧みに自らの描く世界に誘引することはまさしく天意に逆行することになります。

お問合せ

天声が聞こえるという人がいるようです。人のことを言い当てたりするようですが、これは天声でしょうか？

天声は、人のことを言い当てるような超常的な関心のために啓示されるものではありません。ましてそれは安易に人に伝えるものではなく、その本人が直接聞けるまま天声に沿って歩めるほど進化した生命体の証となるものです。当然、天声・天意を正しく受けとめられる次元に位置しているからできることです。ほかならぬ一人一人が人間完成を成し遂げ、他者の救済という人間本来の使命を遂げて、よろこびいっぱい天の元に帰ることができる唯一の道標、それこそが「天の声」です。

お問合せ

福永法源氏以外に、天が法源を命名することはあるのですか。

インターネット上の書き込みから「福永法源氏の後継ぎというのがありますか」という質問がわずかながら寄せられました。

天声を世に伝えるのは福永法源師ただ一人であり、かつて天の声を聴くことができたのは、釈迦、キリスト、法源の三者のみと示されています。ゆえに「法源」そのものには代を重ねる世継ぎや後取りという性質は一切存在しません。

後継ぎを名乗る者が現れても、当会（第3救済 慈喜徳会）あるいは福永法源師とそれらとは一切関係がなく、まして分派するものでもないことを申し添えておきます。